

2.2 口腔周囲筋トレーニングのためのプロフィール Type

2.2.1 口腔周囲筋トレーニングのためのプロフィール Type について

本書の「口腔周囲筋トレーニングのためのプロフィール Type I～V分類」の基準とする側貌の観察は、天然歯が残存している場合、義歯を装着している場合、あるいは初診時に総義歯自体を装着していない患者もおり、それぞれ条件は異なってくる。臨床ではさまざまな状況に遭遇し、その中で分類していかなければならず、術者の主観も少なからず入る。

本書での分類は、側貌観で分析を行い、客観的にわかりやすくするために点数をつけ、判定している。あくまでも基準を作るためであって厳格なものでないことを追記する。

2.2.2 上唇と E-ラインの関係

E-ラインより上唇が前方にある場合には、口輪筋自体は退化していない場合が多いので、頬筋を鍛えることで上唇の形態が変化し、頬筋などの動作により咀嚼全体が改善する。E-ライン上に上唇がある場合には、口輪筋、特に口角部分の動作が鈍い場合、口角が下がり上唇は上を向く形態になる。E-ラインより後方に上唇が存在する場合には、前方カンチレバーを補綴物に与えるが、前方カンチレバーの限界もあり、退化した口唇を再現するには時間を要し、完全な顔貌の回復が難しいことが多い。これらの上唇と E-ラインの関係より、口腔周囲筋トレーニングのためのプロフィール Type に応じて以下のように点数をつける。

- 1点：E-ラインより上唇が前方に位置している
- 2点：E-ライン上に上唇がある
- 3点：E-ラインより上唇が後方に位置している

2.2.3 上唇の向きと厚さ

口輪筋の一部が上唇結節である。上唇結節は退化すると、口腔内に入り込み下方を向きだす。ゆえに上唇の向きは口輪筋の状態を示すといえる。

また、上唇が厚いとトレーニング効果が得やすい。逆に口唇が薄いと上唇結節が口腔内に入り込んでいることが多く、トレーニング効果をすぐには得られない。

これらの「上唇の向きと厚さ」より、口腔周囲筋トレーニングのためのプロフィール Type に応じて以下のように点数をつける。

- 1点：上唇は上向きで厚い
- 2点：上唇は上向きよりやや水平で、厚さは中間
- 3点：上唇は下向き寄りで薄い

2.2.4 口腔周囲筋トレーニングのためのプロフィール Type I～V分類

「上唇と E-ラインの関係」と「上唇の向きと厚さ」の点数の合計から、口腔周囲筋トレーニングのための Type 分類を行う(表2.2.1)。

これらの合計点数が高いほど、口腔周囲筋トレーニングによる治療難易度が高くなる。

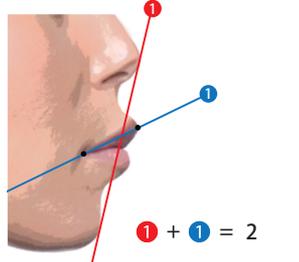
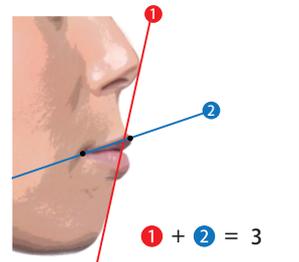
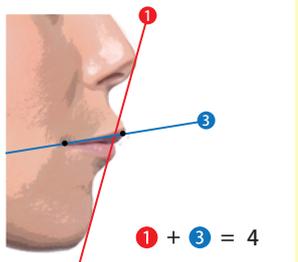
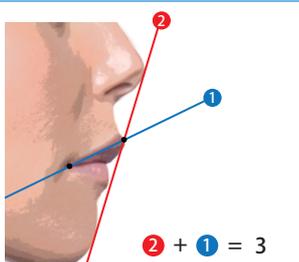
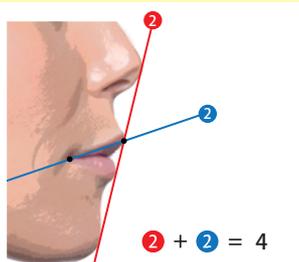
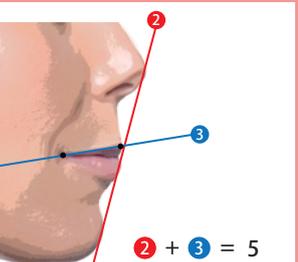
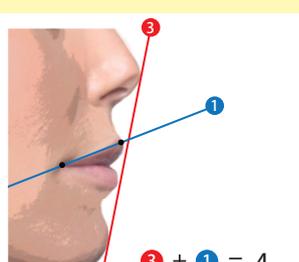
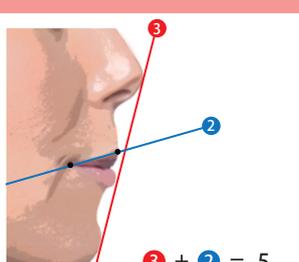
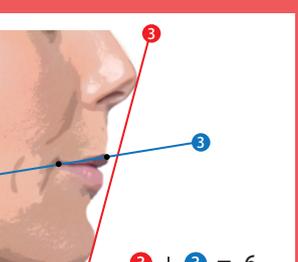
これはあくまで治療を始めるうえでの目安であり、プロビジョナルレストレーション装着後からどのようなトレーニングを筋群に与え、顔貌にかかわるどの筋肉を動作させるかの診断を、タイプ分析から治療の概略の指針にする。

また、顔面分類にあてはまらない側面顔貌も存在するため、E-ラインより上唇がどの位置にあるかを重要視すること。口唇の形態、方向は二次的な診断分析である。

2.2 口腔周囲筋トレーニングのためのプロフィール Type

表2.2.1 口腔周囲筋トレーニングのためのプロフィール Type I～V分類表。上唇と E-ラインの関係(赤色)と上唇の向きと厚さ(青色)の合計点数により、難易度を分類する。2点：最易(薄水色)、3点：容易(水色)、4点：普通(黄色)、5点：困難(赤色)、6点：最困難(濃赤色)。

口腔周囲筋トレーニングのためのプロフィール Type I～V分類表

上唇の向きと厚さ 上唇と E-ラインの関係	Upward(U) : 上唇は上向きで厚い (1点)	Average(A) : 上唇は上向きよりやや水 平で、厚さは中間 (2点)	Downward(D) : 上唇は下向き寄り で薄い (3点)
Over the line(O) : E-ラインより上唇が前方 に位置している (1点)	 Type I (O,U) 2点	 Type II (O,A) 3点	 Type III (O,D) 4点
At the line(A) : E-ライン上に上唇がある (2点)	 Type II (A,U) 3点	 Type III (A,A) 4点	 Type IV (A,D) 5点
Under the line(U) : E-ラインより上唇が後方 に位置している (3点)	 Type III (U,U) 4点	 Type IV (U,A) 5点	 Type V (U,D) 6点

E-ラインについて：

Over the line(O)：E-ラインを越える(1点)：口輪筋自体は退化していないので、頬筋を鍛えることで上唇の形態が変化し、頬筋などの動作により咀嚼全体が改善する。

At the line(A)：E-ライン上にある(2点)：口輪筋の退化により口角が下がることで、上唇は上方あるいは前方に向かう形態となる。

Under the line(U)：E-ラインに達しない(3点)：退化した上唇を再現するには時間を要し、完全な顔貌の回復が難しいことが多い。

上唇の向きと厚さについて：

口輪筋の一部が上唇結節である。上唇結節は、口輪筋、頬筋の動作が成されることで、翻転していた上唇結節は外方に戻り出し、上方向に向かう。この結果、上唇の厚みが増す。上唇が閉鎖できないと、うまく咀嚼することが難しくなる。上唇の形態が正常に戻ることで、咀嚼嚥下機能の回復にもつながる。